ふじさき歯科
デンタルニュース

2015年 No.23

イマージン（想像する）

ふじさき歯科の診療室のドアを開けて入ると、正面に古びたセピア色の写真が飾ってあるのに気がついた人もいらっしゃると思います。

この写真は、今は亡きジョンレノンが1971年に「イマージン」という曲を発表した時の有名な写真です。白いピアノを前に、弾き歌いをしているところです。彼はこの曲の詩の中で「国家や宗教、所有欲などによって引き起こされる憎悪。それのない平和で争いのない世界を想像してごらん。想像は誰でも、全ての人ができることなのだから。」というようなことを言っているのだと思います。作曲から約五十年経った今、世界の各地では未だに国家、宗教、所有欲による醜い争いが絶えることがなく、むしろより深刻な状況になっている気さえします。

ところで、イマージン（想像する）ということは人間だけができる能力でしょうか。動物にもそれに類した行動が見られる気がしますが。例えば、他の動物から身を守る時に変身する擬態、あるいは群れで獲物を捕らえる行動時に見せる連係プレー、などなど。これらは相手から自分がどう見えるだろうか、という視点を変えた想像力が働いているとしか思えない行動ではないでしょうか。

「想像する」ということは、ある経験や知識をもとに、新たな観念を頭の中で新しく再構築していくという、非常に高等な頭脳の働きです。この働きによって、見たこともない世界を思い描いたり、未来を空想したり、頭の中でどんなことでも思い浮かべることができるのです。

私たち、医療を行う世界でもこの「想像力」という力は非常に大事な要素であると私は思います。イマジネーションのない医療は、単なるマニュアルに従った作業ということになってしまう恐れがあるからです。

患者さんと初めて対面しお話を聞くときから、もうこのことは始まっています。この患者さんは「どんな訴えを私たちに伝えようとしているのだろうか。」「身体の健康は、全身状態はしっかりしているのだろうか。」「一番して欲しいことはなんだろうか。」「して欲しくないことはなんだろうか。」「どんな治療を希望しているのだろうか。」などなどを聞き、イメージを作り出してゆきます。もちろん、イメージだけでは確実性に欠けるので、それを裏付けできるような検査をしたり、資料を集めたりしていきます。このような対応の中で一番しなくてはならないことは、患者さん一人一人の立場に立って考えるということです。それには豊かな想像力というものが絶対に不可欠となるのです。

ふじさき歯科の診療理念に『私達の仕事は「信頼」により成り立ち、信頼は「思いやり」と「技術」から生まれる』という言葉があります。この「思いやり」という言葉そのものが想像力という能力そのものだと私は確信いたします。

私たちは治療を始める前から、患者さんにとってどのような治療が最適なのか、一人一人の患者さんへのオーダーメイドの治療をイメージします。そして、最後の治療が終わった時の、その患者さんのお口の中、そして笑顔をイメージします。できうるかぎり。

歯学博士　藤﨑眞人